

ほとんどの出店者が集まった大刀剣市事前説明会



「大刀剣市2015」は、秋深まる十二月二十日(金)～二十二日(日)の三日間、新橋の東京美術倶楽部で開催されます。

その第一回は「全刀商オークション」と称してオークション

「大刀剣市2015」事前説明会開く

形式で開催しました。あれから数えて二十八回を迎えます。そもそも当組合が大刀剣市を開催する意義は、

- ① 組合員の経済活動を促進し、組合員および業界の経済的・社会的地位の向上を図るとともに、顧客に対応するサービスの向上に努める
- ② 一般の刀剣・刀装具および甲冑・武具などに対する関心を高め、美術品としての保存が図られるよう、それが心ない人たちに決して使用されることのないよう啓蒙活動を行う
- ③ 新たな愛好者を開拓する
- ④ 社会貢献をする



大刀剣市2015商品カタログ

大刀剣市2015商品カタログは、出店ブースに関する件や、三階重文室での特別企画「吉田松陰の時代の刀」

今回は十月二十三日の組合交代会終了後、説明会を開催しました。初めに小生が出欠の点検を行い、七十二店中六十五店が

出席されていることを確認して本題に入りました。冒頭、深海理事長が挨拶し、「大刀剣市は組合の相互扶助活動の一つで、国内外の愛好家の

約一時間ではありましたが、内容の充実した事前説明会となり、出店者それぞれが大刀剣市を成功させる決意を胸に誓い、また商売繁盛を祈念して終了となりました。(大刀剣市実行委員長・清水儀孝)

刀剣・書画・骨董

和敬堂

土肥豊久・土肥富康

〒940-0088 新潟県長岡市柏町1-2-16
TEL 0258-33-8510
FAX 0258-33-8511

<http://wakeidou.com/>

美術刀剣・刀装小道具商

やしま

齋藤雅稔・隆久・隆洋

刀装小道具通信販売目録「やしま」
年間10回位発行予定
購読料10回 2,000円(郵便切手可)

〒202-0022 西東京市柳沢6-8-10
TEL 042-463-5310
FAX 042-463-7955

金工・刀身彫刻・修理・諸工作式

柳匠堂

柳村宗寿

岡山市北区平和町二一八
TEL 〇八六二二二二二二二
TEL 〇八六二二二二二二二
TEL 〇八六二二二二二二二
TEL 〇八六二二二二二二二
TEL 〇八六二二二二二二二

刀剣古美術

町田久雄

三峯美術店

埼玉県秩父市野坂町一六六二
西武秩父駅連絡通路町久ビル内
TEL 〇四九四二二二二二二
TEL 〇四九四二二二二二二

美術刀剣、小道具、武具類の
売買、加工及び御相談承ります

大阪刀剣会

吉井唯夫

大阪市中央区日本橋二一七
TEL 〇六一六六三一三二二〇
TEL 〇六一六六三一三二二〇
FAX 〇六一六六四四一五四六四

NEWS, TOPICS, INFORMATION, OPINION & EDITORIAL



2015.11.15 No.26

発行人 深海 信彦
発行所 全国刀剣商業協同組合 編集委員会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10
新宿スカイプラザ1302
TEL:03(3205)0601 FAX:03(3205)0089
<http://www.zentosho.com/>

第26号編集担当

| | | | |
|-------|-------|-------|-------|
| 赤荻 稔 | 飯田 慶雄 | 伊波 賢一 | 大西 芳生 |
| 大平 将広 | 木村 隆志 | 嶋田 伸夫 | 清水 儀孝 |
| 生野 正 | 新堀 賀将 | 瀬下 明 | 土子 民夫 |
| 網取 譲一 | 土肥 富康 | 服部 暁治 | 深海 信彦 |
| 藤岡 弘之 | 松本 義行 | 賀賀 吉也 | 持田 具宏 |

第28回 大刀剣市 '15

11月20日・21日・22日 主催 全国刀剣商業協同組合
年一度の展示即売会に全国各地より優良72店舗
出店。刀剣・刀装具・武具甲冑を中心に多数出品。

●入場料 2,100円 (別出品目録・当日入場券あり)
●日時 平成27年11月20日(金)～22日(日) 20日(金)～22日(日) 17:00～19:00
●会場 東京美術倶楽部 東京都港区新橋6-19-15 電話 03-5401-1339 深業
●お問い合わせ先 全国刀剣商業協同組合 電話 03-3205-0601
〒169-0072 東京都新宿区大久保2-18-10 新宿スカイプラザ1302 FAX 03-3205-0089

内閣総理大臣認可の公認組合です。

主催 慶祥新聞社・フジサンケイ ビジネスアイ
<http://www.zentosho.com/>

百二十余年前の輝きが雲次に蘇る ロシアの博物館で池田(研師)・塚本(鞘師)両氏が修復

ロシアの古都サンクトペテルブルクに、ロシアで最古と言われる国立人類学・民族学博物館(以下、クンストカメラ)があります。昨年十二月で開館三百年を迎え、これを記念すべき事業として、同博物館が所蔵する太刀の保存と修復がこの度行われました。

この太刀は、一八九一年にニコライ二世が訪日した際に日本側から贈られたもので、帰国後、モスクワの美術館に寄贈され、その後現在のクンストカメラに移動し、同館が所蔵してききました。

同館の発表によると、徳川家に伝来したらしく、付随する鍔の表裏には、精密な丸に三葉葵紋が施されています。太刀表に雲次と二



研師の池田長正さん



鞘師の塚本剛之さん



修復を終えた雲次の太刀と付属の太刀拵

字銘があり、備前国宇甘庄に住した同人の作になるものです。三寸五分ほど磨り上がっているものの二尺四寸の腰反り高い太刀姿で、句口が深く直刃調の刃文が所々見えており、地にも地沸がわずかに確認できました。太刀拵に入っただけ、深い朽ち込みはないものの、刀身全体を薄錆が覆っています。ロシアの文化財法にのっとり、この度の修復には多くの時間とさまざまな手続きを要しましたが、日本美術刀剣保存協会ロシア支部の協力により実現にこぎ着けることができました。

修復事業とはいえ、研磨・修復・保存などの言葉とその同義語の使用が一切禁じられており、ロシアでの事業名は、同館よりの発案で「王政復古」となりました。日刀保小野裕会長からはロシア支部への推薦状を頂き、在ロシア連邦大使館交流部の元部長フェイシユン・アンドレイ氏のお力添えも頂戴しました。在サンクトペテルブルク日本総領事館の後援を賜り、開会式には山村総領事と中村副領事両名の出席とご祝辞を頂きました。また、大変多くの方々より賜りましたご支援、誠にありがとうございました。

九月二十二日から十月三日までの期間、白鞘製作と研磨がクンストカメラ館内にて行われました。担当されたのは、白鞘が福島県の鞘師・塚本剛之さん、研磨が神奈川県東部の研師・池田長正さんです。サンクトペテルブルクまでは、成田から直行便でモスクワに向かい、モスクワにてトランジットし、目的地に向かいます。約十五時間かかる長旅となり、日本との時差六時間を考えると、当日ホテルに入るのは夜中の二時、つまり二十二日から同館の日本展示室の隣のホールを会場とし、クンストカメラよりの希望で来館者へ作業を公開しながら、塚本さんの白鞘製作が始まりました。連日多くの方々に来館する同博物館ですが、この度の修復事業でさらに多くが入館したため、安全性を考え、太刀を管理する担当学芸員と警備員の二名が絶えず会場に詰めており、十分な安全確保がなされた中で行われました。

見学に来場された多くの方々や同館の関係者から、一心不乱に取り組む日本人の仕事に対する姿勢に心打たれたとの、共通する感想をいただきました。

白鞘が完成して塚本さんは二十七日に帰国の途に就き、入れ替わりに研師の池田さんがペテルブルクに到着し、翌二十八日より研磨に取りかかりました。すべての修復作業を十月三日に

終えなくてはならないため、池田さんは特別に入館許可を得て九時半に仕事を開始し、閉館時間の十八時ギリギリまで連日取り組むという強行軍でした。

そして約束の十月三日、ニコライ二世が日本から贈られた当時の輝きを取り戻し、太刀・雲次はクンストカメラに引き渡されました。板目に漆が交じり、地沸が微塵につき、地景が細かく入り、乱れ映り立ち、直刃調に互の目・小互の目が交じり、足・葉が満遍なく入り、部分的に逆がかかっています。刃縁には元から先まで小沸が均一に深くつき、刃中の変化も見事な雲次でした。研ぎ終えた池田さんは、「大変働きの多い刀で、時間を忘れて楽しく仕事ができました」と述べられ、遠く離れた地で責任ある仕事を見事に果たした満足感を胸に、帰国されました。

数年前、この太刀を他の美術館に貸し出した際、地刃の状態が変化していたことがあり、この度の修復に関わられた皆さんの努力を考えると、今後の貸し出しは難しくなるでしょうと、文化財の管理責任者は話していました。

白鞘の製作と研磨の仕事を見ていた観客の多くの方々からは、ロシアの博物館の所蔵する宝物を修復して下さったありがたいと、感謝の言葉が寄せられており、開館三百年にふさわしい記念事業は滞りなく終了しました。

(嶋田伸夫)

東日本豪雨被災地からの報告と御礼

今回の東日本豪雨に際しては、ご心配を頂き、また多大なご支援を賜りましたこと、地元の一員として厚くお礼申し上げます。

テレビ・新聞などの報道でご覧になられた通り、台風十八号の影響による記録的な豪雨は、関東・東北地方に甚大な被害をもたらしました。特に栃木県から茨城県西部を流れる鬼怒川では、常総市で堤防が決壊し、想像を絶する被害

に見舞われました。まるで津波のような濁流が一带を襲い、家々を押し流し、木々をなぎ倒していく場面を映像でご覧になった方も多いと思います。浸水面積は約四〇〇万平方キロメートルで、東京と言えば江戸川区全体とほぼ同じだそうです。

私の住む下妻市も床上浸水など、かなりの被害を受けました。堤防の決壊場所は私の家から車で十分ぐらいの所で、下妻市の一部にも水が押し寄せ、浸水しました。最も被害の大きかった常総市は、最も隣なので知り合いも多く、そのほとんどが大きな被害を受けており、他人事とは思えません。

被災三日目の時点で死者二人、行方不明二十二二人、電気・水道はすべて停止、鉄道・道路も完全に破壊され、ライフラインは完全にストップしてしまいました。救援・復旧活動も同時に始まり、警察・消防・自衛隊が必死の活動に当たりました。特に自衛隊は装備も優れ、経験もあり、延べ七千五百三十二人の隊員が現地に派遣され、ヘリで七百二十三人



濁流に浸水した常総市街地

ポートで一千二百九十三人を救助したそうです。また、飲料水の供給、仮設風呂の開設にも当たり、市民に非常に感謝されました。

十月一日には天皇・皇后両陛下が常総市においてになり、被災者を勇気づけられ、また救援活動に当たった自衛官・警察官・消防隊員らにねぎらいのお言葉をかけておられました。

被災後約一カ月の現時点で鉄道・幹線道路がまだ復旧せず、農工商被害は百二十億円超になると言われています。被災した方々の復興も緒に就いたばかりというのが実情です。

引き続きのご支援をお願い申し上げます。(赤荻 稔)

古銭・切手・刀剣 売買 評価鑑定
(株)城南堂古美術店
代表
田中 勝憲

〒153-10051
東京都目黒区上目黒四-1-110
TEL 03-3770-6766
090-3330-8196
FAX 03-3770-6777

組合こよみ (平成27年9~10月)

- 9月1日 銀座刀剣倶楽部会場で『刀剣界』第25号編集委員会を開催(再校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・飯田慶雄氏・大平将広氏・木村隆志氏・土肥高康氏・土子民夫氏
- 4日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(初校)。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大平氏・齋藤隆久氏・冥賀亮典氏・土子氏
- 8日 銀座長州屋にて『刀剣界』第25号編集委員会を開催(念校)。出席者、深海理事長・生野理事・土子氏
- 8日 組合事務所にて伊波常務理事・嶋田理事が産経新聞社産経事業推進室松本氏と打ち合わせ。例年通り大刀剣市カタログ・チケット10セットの読者プレゼントを決める
- 11日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(再校)。出席者、冥賀副理事長・清水専務理事・服部常務理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・土子氏
- 14日 アオバ企画高橋氏の提案により『読売新聞』広告掲載時に大刀剣市カタログ・チケット24セットの読者プレゼントを決める
- 17日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加49名、出来高13,061,000円
- 17日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第26号編集委員会を開催(企画)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大西芳生氏・大平氏・木村氏・土肥氏・土子氏
- 24日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(色校)。出席者、清水専務理事・生野理事・持田理事・土子氏
- 30日 同美印刷にて大刀剣市カタログ編集委員会を開催(色校)。出席者、清水専務理事・生野理事・土子氏
- 10月9日 大坂府立中之島図書館へ『刀剣界』第20~25号を寄贈
- 15日 大刀剣市カタログ入荷
- 20日 大刀剣市事前説明会に向けての打ち合わせ。出席者、深海理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事・生野理事・持田理事
- 23日 東京美術倶楽部にて組合交換会を開催。参加67名、出来高11,116,900円
- 23日 東京美術倶楽部にて理事会を開催。出席者、深海理事長・猿田副理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・飯田理事・佐藤理事・嶋田理事・生野理事・瀬下理事・綱取理事・土肥理事・松本理事・持田理事・吉井理事・大平監事・木村監事
- 23日 東京美術倶楽部にて『刀剣界』第26号編集委員会を開催(初校)。出席者、深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・服部常務理事・赤荻理事・嶋田理事・生野理事・綱取理事・松本理事・持田理事・大西芳生氏・大平氏・土子氏
- 27日 新宿警察署古物講習会に組合より生野理事が参加
- 29日 日刀保小野会長・柴原専務理事・福本常務理事・志塚常務理事・田野道彦氏・小林輝昌氏と当組合深海理事長・冥賀副理事長・清水専務理事・伊波常務理事・嶋田理事が意見交換会を開催



風向計

其之十六

深海 信彦

つい先日、十一月四日に中国国営テレビ局の取材を受けた刀剣店の話を聞いた。正式には「中国中央電視台」、日本語名「中国中央テレビ」は、ニュースは中国共産党からの指示に基づいて報道を行っているが、放送の大部分は自主的なドラマとバラエティから成り立っている。昨今では地方にもテレビ局が創設され、視聴率や広告収入の面でもかなりの競争にさらされているとのことである。

その国営テレビ局が総勢十名でわが国にやって来て、「爆買いと日本の文化」について取材・撮影を申し入れてきたという。

店主は、「爆買い現象は量販店やデパートでのことで、刀剣は中国には持ち帰れないし、中国人のお客さまもそんなに多くはないから」と、やんわり断ろうとしたところ、「中国人には刀剣を購入する許可証がないから買えないのか」とか、「日本国が出さないのか」、中国側が拒否するののか」と、全く会話が成り立たない初期段階ではあった。

しかし相手側は真剣で、「日本の伝統文化の象徴でもある日本刀の魅力を伝えたいことには帰れない」と粘られ、しかも取材する担当者には下請けの制作会社A.D.ではなく、テレビ局の五十歳代のディレクターであるということなので時間を限って応じたという。最初はありきたりの鑑賞の要点や歴史についてであったが、「最も優れた刀はいつの時代のものであるか」との質問に対して、その店主が「フビライが治める元の国の軍勢が蒙古軍・高麗軍と連合してわが国に大挙して押し寄せた一二七四年と一二八一年の文永・弘安の

役の前後である」と答えたところから相手側も徐々に本音を漏らし始め、「実は自分たちも事前に勉強してきたのだ」と披露し、何と「菊と刀」を熟読し、日本および日本文化の神髄に迫ろうとしているのであると。

『菊と刀』は昭和十九年に日本に来たこともないベネディクト女史が、アメリカの戦時情報局(後のCIA)から依頼されて対日戦略のために日本文化の解明を試みたもので、恩や義理、恥などを日本文化固有の価値として分析し、日本人特有の精神構造と行動様式をある意味皮相的に著したもので、菊という天皇と、刀という武士を端的にタイトルとしたことで外国人には取っ付きやすく、しかも短編であることにより、現在ではネットなどのヒット数も多いと予想されるが、残念ながら刀のことについては何も書かれてはいない。

『菊と刀』を予備知識としてインタビューを受けていたのではたまたまと思っていたところ、さらに驚くべき質問を浴びせられたという。曰く、「日本人は今でも切腹しているのか」と。もう、話にならないのでこぼれつつ、相手方にも有利な話をして刀の話が終わらせようと試み、「現存している優れた文化遺産である日本刀も、起源をさかのぼれば唐の国から伝わったもので、平安時代後期に至って様式的発展を遂げ、ここに見えるような姿になったのだ」と中国をもち上げようとした。ディレクター氏は、「それは違う、わが国に古くからある武器としての刀と、今見せてもらった刀とは全くスタイルが異なる。その証拠に日本

にはその前段階である青龍刀形の刀は存在しないではないか」と。閉口した店主は、それについてこう答えたという。「わが国にも相手側を倒すためだけに目的の青龍刀に似た難刀も大身槍も存在したのであるが、日本人は刀を攻撃のためだけではなく、身を守るためや精神的な支えとして帯びていたもので、刀鍛冶も持ち手のことを考えて魂を入れて鍛錬し、これを研磨し、外装を製作して大切に伝え続けたものである。戦いのなくなった明治から百五十年後の今日でも美術品としてその価値が保たれており、あなたの国のように武器としてだけに使われたものであれば、争いがなくなればまさに無用の長物と化していることであるが、わが国ではそこが異なるのです」と。

話はそのまま噛み合わず平行線をたどったが、最後の質問は、「買う側には何の資格も不要で、日本人・外国人を問わず許可が必要ない」とすれば、売る側には必ず資格や免許証はあるであろう。深い知識が必要で、しかも高価なものも多く、保証も必要となってくるであろう」と。この質問には参ったが、彼は即座に「われわれは国の認可の刀剣組合に加入しており、公安委員会から許可も得ている」と答えたという。

しかし、そうは言ったものの、刀を販売する資格などという認定は業界にはなく、現在は国家資格以外に数え切れないほどの民間資格なるものが設けられている中で、このような一般的な問いかけに明確に答えられるべく、業界も何らかの策を講じる必要があるかと切実に感じたとす。

わが組合も現在、まず組合員を対象に刀剣鑑定・査定・評価等の資格を認定する事業の検討に入っている。多くの困難を乗り越えなければならぬが、業界発展のため

にはその前段階である青龍刀形の刀は存在しないではないか」と。閉口した店主は、それについてこう答えたという。「わが国にも相手側を倒すためだけに目的の青龍刀に似た難刀も大身槍も存在したのであるが、日本人は刀を攻撃のためだけではなく、身を守るためや精神的な支えとして帯びていたもので、刀鍛冶も持ち手のことを考えて魂を入れて鍛錬し、これを研磨し、外装を製作して大切に伝え続けたものである。戦いのなくなった明治から百五十年後の今日でも美術品としてその価値が保たれており、あなたの国のように武器としてだけに使われたものであれば、争いがなくなればまさに無用の長物と化していることであるが、わが国ではそこが異なるのです」と。

美術刀剣外装技術保存会 研修会・総会を開催

去る九月八日、静岡県三島市の佐野美術館において、美術刀剣外装技術保存会の研修会を開催しました。参加者は二十一名でした。渡邊妙子館長のご厚意により用意していただいた拵は、上杉景勝三十五腰の一つである「秋草文黒漆太刀拵」(刀身は豊後国行平)や、火車切広光の付「黒漆小サ刀拵」をはじめ、太刀・打刀・脇指・短刀の拵、合わせて十二振。一般の方が美術館で鑑賞するなら、各時代の優れた拵であれば十分に楽しめるわけですが、実際に拵製作に携わる職人の参考になるものとなると、そればかりでは物足りません。今回ご用意いただいた拵は、職人にとってまさにベストチョイスとも言えるラインナップでした。

館長のおっしゃるには、刀剣類の鑑賞機会は当美術館で数多くあるものの、拵だけの鑑賞会は今回が初めてのことでした。本来、日本刀製作の工程は、刀匠・研師のほかに、鞆師・塗師・柄巻師・白銀師など専門の職人が相互に協力し合って一つの作品に作り上げていく総合工芸の世界です。普段、それぞれの職人は、多くの場合、独り黙々と仕事場で作業をしています。その職人が一堂に会し、具体的な拵を前にして多角的な面からそれを検証・考察する機会というのは、そうあることではありません。

それ故に、参加した職人はこの好機を最大限に生かそうと、気になる拵の前に急ぎました。今回は拵の扱いに慣れている専門の職人たちがたというところで、ルーペを使って細部まで見ることや、金員類を外して鑑賞することなどを許しただけで満足しませんでした。それによって新たな発見があり、その拵を製作した職人が、どこにこだわったかというところまで感じ取ることもできました。

そして、若手職人にとっては、ベテランから拵製作の知識・技術だけでなく、職人としての心構えまでも学べる絶好の機会となりました。予定していた二時間がきわめて短く感じられるほどの白熱ぶりでした。当日は台風の影響で、三島市もあいにくの悪天候だったのですが、研修に参加した職人は、良き勉強の機会を与えてくださった館長と職員の方にお礼を申し上げ、心の中晴れやかに佐野美術館を後にしました。

なお、美術刀剣外装技術保存会の平成二十七年総会が伊豆長岡温泉ホテル「天坊」にて開催され、事業・会計報告等議案が可決されました。その際、長く会長を務められた高山一之氏より辞任の申し出があり、審議した結果、会長ほか新役員が次の通り決まりましたので、報告します。



拵について意見交換する研修会風景

会長 宮島宏
副会長 中田育男・遠山康男
常務理事 岡部久男
(会計兼任) 宮下武
理事 川之辺朝章・剣持直利
監査 菅原静雄・森雅晴
なお、勇退された高山前会長には相談役をお引き受け願ひ、今後もしもご指導いただくことになりました。(装剣金工・木下宗憲)



渡邊館長と外装会会員 (佐野美術館にて)

刀剣・小道具・甲冑武具
目白 **飯田高遠堂**
代表取締役 飯田慶久
〒161-0033
東京都新宿区下落合3-17-33
TEL 03-3951-3312
FAX 03-3951-3615
<http://www.iidakoendo.com>

(株)美術刀剣松本
松本 富夫 義行
〒278-0043 千葉県野田市清水199-1
TEL 04-7122-1122
FAX 04-7122-1950
www.touken-matsumoto.jp

美術日本刀・鐔・小道具・甲冑
日本の伝統文化を彩る
JAPAN SWORD CO., LTD.
(株)日本刀剣
伊波賢一 Ken-ichi Inami
〒105-0001 東京都港区虎ノ門3-8-1
TEL 03-3434-4321
FAX 03-3434-4324

銀座 **泰文堂**
〒104-0061 東京都中央区銀座4-3-11
松崎煎餅ビル4階
(株)銀座泰文堂 代表 川島貴敏
TEL 03-3563-2551
FAX 03-3563-2553
フリーダイヤル 0120-402037
<http://www.taibundo.com>

刀剣 高吉
古名刀から現代刀、御刀のことならお任せください!
連絡先 **090-8845-2222**
代表者 高島吉童
東京都北区滝野川7-16-6
TEL 03-5394-1118
FAX 03-5394-1116
www.premi.co.jp

刀 剣 界

随 想

日本刀との出会い

ヒューズ・ロバート(慶長堂)

一九八二年、新潟市にある富山スポーツセンターの道場で、いつもの通りのJK A空手の練習を終え、へとへとに疲れ切ったころ、私は年配の居合道家たちが袴に着替えて、鞘から刀を取り出す姿に心を奪われた。

広い道場の端から見た、彼らの大変興味深い一連の動作は、かつて私の人生の中で見たこともないもので、強い衝撃を受けた。

私と空手仲間であるカナダの友人は、翌週の空手練習後と同じ居合道グループに遭遇した。

彼らの練習も終わりにさしかかるところ、一人の指導者らしき人が私たちのところに来て来て、早口の日本語で何やら話しかけ始めると、他のメンバーたちも好奇心旺盛な眼差しで様子を見守っている。しかし日本語を理解できない私たちに、突然大笑いをしたのだ。彼は全く英語がでず、私たちの恥ずかしいほど低い日本語能力では、何が起きているのか見当もつかなかった。

この何とも滑稽な出会いの後、夢想神伝流居合道指導者の一人で、刀剣商リレー訪問②

刀剣商リレー訪問②

遺志を継いで頑張る二代目店主

今回は、神田に店を構える舟山堂と稲留修一さんをご紹介します。

開店は昭和五十一年で、九段下の徳海屋ビル一階にありました。当時の店名は正見堂と言います。山田均さんが社長でした。刀剣柴田の一番頭として長く、刀剣柴田の歴史を見てきた方です。刀剣商らしからぬ学者肌で、店にいるときは本を読んでいるか、タバコを吸っている姿しか見た記憶がありません。本名は「ひょう」ですが、

ある橋本先生が道場に誘ってくれた。私たちは喜んで道場に入門し、早速、袴と模擬刀を購入したのである。

居合道入門から数カ月たったころ、道場の先輩たちが真剣を見せてくれたのを機に、私の人生は大きく変わった。初めて真剣を手にして、備前丁子を近くで鑑賞したとき、気



居合を披露するヒューズ・ロバートさん

持ちはまるで催眠術にかかったように、私が刀を手を持っているというより、刀が私の心を捉えたというほど、刀剣に魅了された。刀剣に出会ったというときは、言葉では言い表すことができないほど、私の人生において強烈な意味合いをもたらした。

後に、橋本先生には弟がおり、お二方も研師であることがわかった。弟さんのお住まいは亀田村で、あの有名な「越乃寒梅」の醸

稲留修一さん

音読みで通り、「ヤマキンさん」で親しまれていました。

昭和五十四年に稲留さんが入社し、営業を担当されました。稲留さんの生まれは鹿児島県で、芯が強く、まさに薩摩人そのものです。目利きでもあり、山田さんの片腕になっていました。

平成六年、正見堂は舟山堂に社名を改めました。山田さんの故郷である伊豆の舟山に由来するものです。同八年、飯田橋に移転し、

造所からわずか数百メートルの近き。出会いの翌年からの四年間は、毎晩の刀鑑賞と、絶え間なく注がれる日本酒とともに夜が明けるといった具合。大変価値あるありがた

い日本刀の講習は、たくさんの徳利酒によってはるか彼方へと、私の記憶から遠ざかっていってしまったことは言うまでもない。

このようなケースはまれだったらしいが、困惑している状況の中、二階から私服警官が呼ばれ、彼らは私に会議室に一緒に行くようにと言った。その会議室は簡素な部屋で、尋問に使われるような部屋であった。約二時間に及ぶ質問攻めの後、外国人が日本刀(真剣)を持つことは不可能であると告げられた。こうして、私の日本刀が欲しい、自分の刀を持ちたいという夢は、二人の強面の警官によって閉ざされたのである。

それから二年もたたないうちに、東京外語専門学校に転職し、東京へ引っ越した。

勤務先である新潟総合学園近くに、大西氏が営む古美術店があり、大西氏は有名な刀剣美術商の一族であることが一年後にわかった。お店に向うたびに、「日本刀が欲しい」という私の夢を再確認するのであった。

新潟での生活も四年目。私の腕前も三段となり、真剣を買うには十分な貯金も貯まったころ、大学の理事でもある私の上司に相談すると、刀剣を買うには新潟警察署

に行く必要があるとアドバイスを受けた。そこで通訳の方とともに警察署に行き、日本刀を買うためにここに来たことを告げた。すると受付にいた警察官は、別の警察官と相談を始めた。

このようなケースはまれだったらしいが、困惑している状況の中、二階から私服警官が呼ばれ、彼らは私に会議室に一緒に行くようにと言った。その会議室は簡素な部屋で、尋問に使われるような部屋であった。約二時間に及ぶ質問攻めの後、外国人が日本刀(真剣)を持つことは不可能であると告げられた。こうして、私の日本刀が欲しい、自分の刀を持ちたいという夢は、二人の強面の警官によって閉ざされたのである。

それから二年もたたないうちに、東京外語専門学校に転職し、東京へ引っ越した。職場で知り合い、後に高野山の僧侶となった同僚のTom Dreiblattは、熱心に居合道に打ち込んでいて、彼の通っている道場に誘われた。その道場は、虎ノ門NCRビル地下にあり、そこで河端照孝氏を紹介された。そのころの天真正自源流には、有名な刀鍛冶の吉原国家氏や、盛光堂の齋藤大輔氏など魅力的な人々がおり、とても刺

激的な道場であった。道場の先輩であるTomは、外国人が日本刀を買うことができないという情報は間違っていると指摘した。事実、日本刀を外国人が所有できないという法律は存在していなかった。私の念願の刀は、Tomから購入した古刀法光であった。

その後、盛光堂の齋藤氏から、毎週千圓のアルバイトを頼まれ、ビジネス英文の作成のお手伝いをするようになった。このような経緯で、私が永遠に尊敬する齋藤光興氏との出会いが始まった。その後、ついに私自身が事業を立ち上げ、海外へ流出してしまっただ日本刀を故郷である日本に帰国させるべく、アメリカでの日本刀探しが始まった。

私が日本刀に出会ったころとは驚くほど状況が変化し、今や、日本刀の魅力は世界各国で認められ、世界水準の美術品としての確固たる地位を築き上げている。微力ながらも、日本刀の魅力を伝える役割に貢献していることに誇りを持っている。

全国刀剣商業協同組合の皆さまには大変お世話になり、何年にもわたりご支援を受けていることに大変感謝しています。

い、奮闘しておられます。山田さん、稲留さんともに研究熱心で、舟山堂では今年六回、神田刀剣会と称する研究会を開催しています。講師は広井雄一先生で、時代や流派ごとに懇切丁寧な解説をしていただきます。毎回、二十数名の参加者が和やかに刀を楽しんでおられます。

お気軽に舟山堂と神田刀剣会へのお越しを、店主は申しあげています。(藤岡弘之)



稲留修一さん

十五年に現在の神田に店を構え、地下一階のこじんまりとしたお店ですが、古名刀や刀装具の名品を扱い、お客さまも目の肥えた方が多いようです。

ふるさと自慢 第15回 ●福井県福井市 越前の生んだ名工を顕彰する 勝山 捷容(白銀師)

戦国大名たちが鎧を削り、天下統一に向かって社会が大きく変革した戦国時代後半以降は、刀の世界でも、原料である鉄の流通や生産体制、製作技法などに、それまでとは異なる大きな変化があったとされる「新刀期」に当たります。

この時代は越前では、城下町福井を中心とする多くの刀工が活躍しました。『日本刀銘鑑』(石井昌国編)によれば、その数は二百名余り。この数は、当時の大都市であった江戸・大坂・京に次ぎ、美濃・肥前とほぼ並んで、全国で六番目です。

越前の刀工の中でも、大きな勢力となったのが下坂派で、近江国下坂(現在の滋賀県長浜市)より移住、同様に美濃国関(岐阜県関市)ほかから移ってきた刀工たちをも傘下に収めて大きな集団となったようです。越前下坂派として

おおよそ百名の刀工が知られていますが、その代表的存在が康継です。初代康継は、初め「肥後大塚下坂」と銘を切りましたが、初代福井藩主・結城秀康に任せ、また徳川家康にも召し出されて双方に仕えるようになり、家康の「康」の一字を賜って「康継」を名乗り、また刀に葵紋を刻むことを許されて、越前と江戸を行き来したという人物です。

刀工としての技量はもちろん多くの鍛冶をまとめて大量の刀剣の需要にも応えるという、経営的な手腕にも優れた人だったのではないかと考えられます。

慶長二十年(一六四五)、大坂夏の陣で大阪城が焼けたとき、豊臣秀吉が収集した「海老名宗近」や「鯨尾藤四郎」「獅子貞宗」ほか天下の名刀も多くが焼け身となりましたが、康継はこれらに再び命を吹き込むべく再刃を行うという大役を家康より仰せ付けられ、成し遂げました。また彼は、これらの名刀の写しを多く作りましたが、名刀の特徴を捉えながらも自らの創意を盛り込んだ作品は、現在も高い評価を受けています。



初代康継の墓碑

公益財団法人日本美術刀剣保存協会福井支部では、彼の命日である毎年九月九日に、墓所の清掃奉仕と供養を行い、越前が生んだこの名工を顕彰しています。

信長像の既成概念に挑戦する

『織田信長 四四三年目の真実』

明智憲三郎 一三〇〇円(税別) 幻冬舎

『本能寺の変の变』

黒鉄ヒロシ 一三〇〇円(税別) PHP

この二冊の本を取り上げたのは、共に織田信長の決断のよりどころであった「知識・理論」を共有して、「信長はこう考えたはずだ」と推理する、つまり信長の頭脳の中身「信長脳」を「歴史捜査」する過程で成り立っているからである。

『織田信長 四四三年目の真実』では、「大うつけの正体」「勝利を創り出した信長脳(桶狭間の戦い)」「苛烈・残虐の真相」「天下統一への道」「本能寺の変の神話を暴く」「天下統一の先に求めたもの」「なぜ本能寺で討たれたか」と目次が並ぶ。

変天々目「四国国分」朱印状「本能寺でおじやりまする」凶変目撃三匹の蛙「斎藤利三切腹命令」「混濁本能寺」「本城惣右衛門覚書」「光秀霊面会」「光秀裁判」「本能寺三途の河」「逆転本能寺の変」となっていて、いずれも面白いのだが、読者の興味を引く「四国」の一節を取り上げてみた。

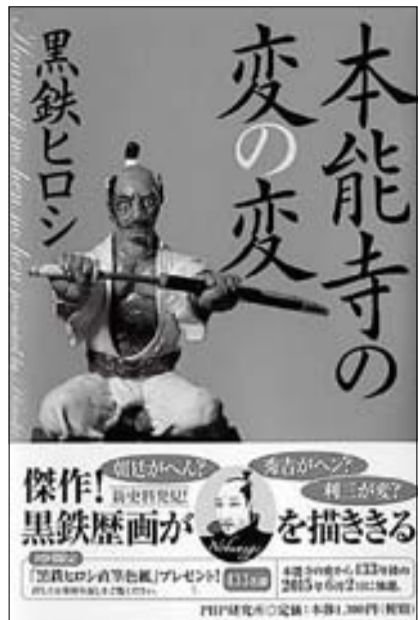
『本能寺の変の变』では、「四国国分」朱印状「本能寺でおじやりまする」「斎藤利三切腹命令」の項で書かれているのだが、岡山県・林原美術館での長曾我部元親や明智光秀重臣斎藤利三の書状の発見によって、信長の対長曾我部

政策が転換したこと、また、信長と光秀、光秀と利三、利三と元親をつなぐラインがあったと同時に、利三と家康、家康からのラインが利三の娘、徳川家光の乳母として有名な春日局にまで延びていることなどがわかる。家康は光秀家臣やその子孫にまで、驚くほど厚い待遇を与えているのである。そして、信長より切腹命令が出るも、信長側近の取りなしにより助かった斎藤利三は、本能寺の変の後、捕縛され、謀反随一、すなわち変の首謀者として「車さた」つまり両手・両足を引きちぎられる残酷な刑罰を受けている。

そして『織田信長 四四三年目の真実』では、「元親記」の信憑性が裏付けられたことについて「元親記」を読み直し、利三が明智謀反の戦いを差し急いだ」と書かれていて、「利三が明智謀反の戦いを企てた」とは書かれていない。既に別の理由で光秀は謀反を企てていて、それを知っている利三は「その実行を急がせた」ということである。

こういった問題意識は両書に共通するが、結論が違ったりする面白さが随所にある。

ほかに、この欄で以前紹介した明智憲三郎著『本能寺の変 四四一年目の真実』と黒鉄ヒロシ著『新・信長公記』を併せて、四部作と考えていただきたい。四作すべてをお読みいただければ、何となく戦国時代の歴史的背景や、戦国武将のカルチャーといったものが理解できたという気分にはなれることだろう。(持田真宏)



若者広場 20 旅するって、刀を作るって

河内 一平(刀匠)

代々続く刀鍛冶の家系に生まれた私は、幼いころから炭の粉や、鞆の音、鉄の沸く独特の匂いと一緒に育ちました。

長男の私は、物心つくころには周囲の環境や声などから、当然刀鍛冶になるもんだ、と思っ

た。今振り返れば、稚拙な考えの自分に恥ずかしい思いをするばかりですが、大学を卒業するころには「自分探しの旅」と称し、放浪

の真似事のようなことをしていました。実際は、濃くない髭を生やし、汚い格好をして、重いザックを背負い、外国をフラフラしているだけでした。南京虫がいるような安宿で目を覚まし、けだるい体をようやく起こしてまた次の町へ……そんな日々でした。

しかし、そのときはそのときで精いっぱいであったし、次の町に行けば何か新しい自分に出会えるかもしれないという、根拠のない思いが私を突き動かしていたのかもしれない。

東京で形ばかりの会社勤めをし、お金を貯めては旅に出ている私は、その後弟子入りすることになる、宮内小左衛門行平の個展に招かれました。幼いころから交流のあった宮内と作品を見ながら近況を話した帰り際、ふと宮内が、家族で旅行に行くの



終戦から七十年の秋、あの時代を振り返る好個の映画が完成した。「サクラ花」桜花最期の特攻」。

NEWS & TOPICS 生還かなわぬ小型特攻機をめぐる人間模様

終戦から七十年の秋、あの時代を振り返る好個の映画が完成した。「サクラ花」桜花最期の特攻」。

桜花とは、終戦間際の昭和二十年、九州沖や沖縄方面の航空戦に投入された特攻兵器である。機首部に大型爆弾を搭載し、母機に吊るされて目標付近で分離される。プロペラも車輪もなく、一度乗ったら生きては戻れぬ「人間爆弾」である。十次に及ぶ出撃で、特攻戦死五十五名、母機搭乗員の戦死三百六十五名と記録されている。

映画は六月二十二日、茨城県・

もいいもんだよ、と言いつつ、個展の図録を手渡してくれました。その図録の最後のページに「ものを作ること、旅することは同じである」と書かれていました。その一節に目の前の霧が静かに晴れたように気がして、宮内の門を叩くことにしたのです。

それから十五年が経ち、年齢は四十を過ぎました。

作刀のさまざまな工程はすべて自分の手で究めていくわけで、出来上がったものは誰のせいにもできないし、言い訳もできません。出来上がったものからは自分の負の面ばかりが目につきますが、中には「一平君らしいいい刀だね」と言ってくれる方も……。少しのそういう喜びが、また次の作刀へと向かわせてくれるのかもしれない。

最終的にはまだ見えませんが「もの作りの旅」を続けていきたいと思えます。

■一筆啓上 昭和四十八年、河内國平刀匠の長男として奈良県に生まれる。三人の弟がいる。平成七年、京都の仏教大

ますか。乗員に一言を残し、母機を離れていくのである。回想のシーンに、昭和初期に流行した「私の青空」が流れる。

♪夕暮れに仰ぎ見る 輝く青空 日暮れてたどるは わが家の細道 時代は移り、今。キンケイギクの咲き乱れる公園に、家族連れや若者たちの楽しげな姿が広がる。

平和と繁栄を謳歌する時代のはざまに、狂気と惨劇が重ねられたことを忘れてはならないだろう。

監督は「天心」で高い評価を得た松村克弥、出演は大和田健介・緒形直人・林家三平・橋本一郎・磯山さやか・渡辺裕之。



戦友の死に弔意を捧げる乗員たち

「サクラ花」の公式サイトは、<http://www.sakurahana-movie.jp/>

(下)

ブック・レビュー

憂える心が書かせた江戸庶民の純情

『無私の日本人』

磯田道史 五九〇円十税 文春文庫

『武士の家計簿』で彗星のごとく登場し、NHKBSプレミアムの「英雄たちの選択」では異分野の論客たちと激論を闘わせる。白痴の歴史家であり、饒舌のMCとしても面目躍如の磯田道史先生が著した『無私の日本人』が、このほど文庫に加わったので紹介しておきたい。

本書が取り上げたのは、三人の江戸人。藩に貸し付ける金の利息で貧しい故郷を救おうとした商人・穀田屋十三郎。清貧を貫き庶民とともに生きた天才儒者・中根東里。絶世の美女に生まれながらあえて辛苦を選り、庵で陶器を作り続けた大田垣蓮月。磯田先生は史料を通して出会った無数の日本人からあえて彼らを選び、共通する「無私」という生き方に迫る。

中でも穀田屋十三郎と同志たちの行為は、これほどの庶民が実在したのかと心を動かされる。東日本大震災の少し前、磯田先生は宮城県黒川郡大和町吉岡の吉田勝吉さんから手紙を受け取った。「私は東北に住む老人である。実は、ここ吉岡宿には涙なくして語れない、本当に立派な人たちの話が伝わっている。この人たちの無私の志のおかげで、私たちの地域は江戸時代を通じて人口も減らず、今に至っている。磯田先生、どうかこの話を本に書いて、後世に伝えてくださいませんか。」



無私の日本人 磯田道史

先々が危ぶまれていた。穀田屋は住民の貧困を救うために、一つの策を考へる。まとまった金手を藩に貸し付け、毎年の利息を宿場の運営に充てる

上昇気配を感じた全刀会大会



爽やかな秋晴れに恵まれた十月十六日、全国美術刀剣会(全刀会)の準大会が東京港区白金台の八芳園白鳳館において開催されました。さすがに五十一年の歴史を持つ由緒ある全刀会です。伊波賢一理事長による開会の挨拶の後、全国から訪れた会員と招待者が持ち寄った名品・優品・珍品の数々が紹介され、活気あふれる大変にぎやかな大会となりました。

刀剣ブームの影響も相まって強い買気の配が続く刀剣市場、長らく低迷状態にあった相場も上昇に転じ、じわじわと上がってきている感があります。日本刀は今後も、国内のみならず世界から注目される美術品としてますます高く評価されていくに違いありません。今年の全刀会大会は、まさに刀剣界の将来の発展を予感させる大会であったと思います。(生野 正)

イベント・レポート

江戸東京博物館特別展「徳川の城―天守と御殿―」

八月二十一日から九月二十七日まで、江戸東京博物館にて特別展「徳川の城―天守と御殿―」が開催された。行ったのは九月二十一日の敬老の日で、六十五歳以上は常設展示観覧料が無料ということもあって、年配の方を中心に賑わっていた。

展示物は、縄張り図・天守・御殿の平面図・立面図が大半を占め、それに江戸城・大阪城などの屏風絵と篤姫・和宮の調度品が往時の様子を伝えていた。大きき3

新橋刀剣会熱海大会で上々の出来高

新橋刀剣会が発足してから丸三年が過ぎ、熱海大会も今年で二度目の開催となった。新橋刀剣会の前身である築地会は大変歴史と格式のある会であったが、三年前に一度、度重なる事故により存続の危機を迎えた。会長の立直しのために新堀孝道氏が会長に就任し、会の名称も新たに再スタートを切ったことは皆さんの記憶にもまだ新しいのではないだろうか。

膨大なマイナスを背負ったのスタートは並大抵のことではなかったが、会長はじめ役員の方々の努力もあり、昨年は第一回大会を開催するまでになった。一時は会が行く末を案じた会員たちも、大いに胸をなで下ろしたところであろう。そして十月十五日、第二回新橋刀剣会熱海大会が、既に定宿となつたあたま石亭で開催された。



新橋刀剣会熱海大会の交換会風景

アオバ企画(株) 高橋 一 TEL 03-3362-1111 FAX 03-3362-1115

特別文化財講演会「古代における日本最大の製鉄遺跡群」 埋蔵文化財調査と東日本大震災の復興支援 九月二日、江戸東京博物館において「古代における日本最大の製鉄遺跡群」と題し、公益財団法人東京都スポーツ文化事業団の主催する特別文化財講演会が開催された。東日本大震災の被災地では、復旧・復興事業と併せて埋蔵文化

持つ福島県の古代製鉄遺跡群などを紹介するもの。第一部では、東京都埋蔵文化財センターの及川良彦氏が「東京都と福島県の連携について」福島県に出向して考えたこと」を話された。支援調査地は南相馬市天化沢A遺跡。津波で浸水した沿岸地域では、かさ上げによって被災農地

催事情報

京都国立博物館

〒605-0931 京都市東山区茶屋町527 ☎075-525-2473
http://www.kyohaku.go.jp/jp/index.html

特集陳列「刀剣を楽しむ ―名物刀を中心に―」

この特集陳列では、後鳥羽上皇が自ら手がけたとされる太刀「菊御作」、斬りつけた真似をするだけで相手の骨が砕けるという伝説を持つ「薙刀直し刀(名物骨喰藤四郎)」、(重文、豊国神社蔵)をはじめ、桶狭間の戦いで織田信長の戦利品である「刀(名物義元左文字)」、(重文、建勲神社蔵)、坂本龍馬所用の「刀 銘 吉行」(京都国立博物館蔵)など、ドラマティックな歴史を持つ名刀の数々をご紹介します。作品に秘められた歴史と併せて、奥深い刀剣の美の世界をお楽しみください。

主な展示作品:

- 重文 太刀 菊御作
 - 重文 刀 金象嵌銘 永禄三年五月十九日義元討捕刻彼所持刀/織田尾張守信長(名物義元左文字)
 - 重文 薙刀直し刀 無銘(名物骨喰藤四郎)
 - 重文 短刀 銘 吉光(名物秋田藤四郎)
 - 重美 短刀 無銘(名物上部當麻)
 - 刀 銘 吉行(坂本龍馬所用)
 - 刀 銘 長曾祢虎徹入道興里
- 会期: 12月15日(火)~2月21日(日)

丸亀市立資料館

〒763-0025 香川県丸亀市一番丁城内 ☎0877-22-5366
http://www.city.marugame.lg.jp/institution/culture/shiryo.html

丸亀市合併10周年記念「京極家の家宝展」

京極家は江戸時代に約210年間にわたり、西讃岐一帯の丸亀藩を治めた大名です。名門の武家にふさわしく、京極家は刀剣・茶道具・書画・茶道具・書画・調度品、佐々木家ゆかりの古文書や遺物などの由緒ある大名道具を所持しています。今回の展覧会では、将軍の上覧に入れた伝統ある京極家の家宝の数々を紹介いたします。昨年その存在が確認され、丸亀市が購入し、本年度修復を終えた新収蔵資料で初公開となる「二尊旗」、重要美術品の刀「ニッカリ青江」も展示されますので、ぜひご来館ください。

会期: 10月10日(土)~11月29日(日)



鉢形城歴史館

〒369-1224 埼玉県大里郡寄居町鉢形2496-2 ☎048-586-0315
http://www.town.yorii.saitama.jp/site/rekishikan/

秋季企画展「第58回埼玉県名刀展」

鉢形城歴史館の秋季企画展は、埼玉県刀剣保存協議会との共催により「第58回埼玉県名刀展」を開催します。わが国古来の伝統工芸品である日本刀を、この機会にどうぞ鑑賞ください。

期間中、各種のイベント開催を予定しています。

なお、後期は「埼玉の郷土刀」と題し、埼玉県にゆかりのある刀匠たちの作品を中心に展示します。幕末から明治にかけて、用土村(現在の寄居町用土)で工房を構え造刀した震鱗子景一や月心斎宗一の作品も注目です。

「刀 銘 藤枝太郎英義/安政五年同年於伝馬丁 山田源蔵大々土壇弘/」ほか12点。このほか、古金工鐔11点を展示します。

会期: 11月10日(火)~11月29日(日)



高知県立坂本龍馬記念館

〒781-0262 高知市浦戸城山830 ☎088-841-0001
http://www.ryoma-kinenkan.jp/

龍馬生誕180年記念企画展 龍馬の良き理解者「坂本家・家族の絆」展

龍馬はこの土佐に生まれ、この地を、家族を、友人・仲間を愛して、なお脱落した。そして、異郷にある龍馬を勇気づけ、励まし続けたのが家族である。異端児とも言える龍馬を大らかに、時には叱咤しながら信頼し続けた坂本家とは、家族たちとはどんな人たちか。生誕180年の年に、龍馬と家族の絆を見つめ直していく。

この度、坂本家(郷土家、札幌市)より一括寄贈寄託いただいた資料や、120年ぶりに里帰りする北海道・浦臼町所蔵の龍馬書簡なども紹介する。

この中には、龍馬が特に愛したとされる長船勝光・宗光合作(永正2年紀)の脇指や、北辰一刀流から与えられた免許皆伝書なども含まれる。

会期: 10月3日(土)~1月22日(金)



話題の刀剣女子が突如、丸亀市に現れて、市民を驚かせている。

10月10日、丸亀城の敷地にある市立資料館で始まった「京極家の家宝展」。早朝から多くの若い女性が詰めかけ、開館前に長蛇の列ができた。お目当ては「ニッカリ青江」。同資料館には、公開を発表した約3カ月前から問い合わせが相次いだといい、全国から訪れたファンが前泊して、ニッカリ青江との対面を心待ちしていた。

その原因を作ったのは、オンラインゲーム「刀剣乱舞—ONLINE—」だ。その中でニッカリは、緑色の髪で右目を隠した見目麗しい長身のイケメン男子に擬人化されている。登場するキャラクターの中でも上位の人気だ。

館内は女性たちの熱気にあふれ、撮影自由とあって、本物とキャラクターのパネルの間をスマホ片手に往ったり来たり。初日の入館者数は1,889人と、これまでの企画展の約6倍に上ったという。

丸亀市では美男子キャラのポストカード(250円)と2種類のクリアファイル(各400円)をそれぞれ1万枚と各3,000枚を用意し、観光案内所で販売したが、これにも女子が殺到。市では急きょ、追加生産を決めた。

略称「とうらぶ」とコラボする刀剣展は全国でいずれも記録的な成功を収めているが、ここを女性が訪れる現象は、「巡礼」と呼ばれている。(T)

江東区古石場文化センター

〒135-0045 東京都江東区古石場 2-13-2 ☎03-5620-0224
http://www.kcf.or.jp/furuishiba/

講座「日本刀 神の宿りし美術工芸品」

日本古来の鍛冶製法で作上げられる日本刀。その製作工程は長い歴史にのっとった神事とも言うべき厳かな作業です。

信仰の対象や権威の象徴としての側面と、機能美を追求した刀身から放たれる美しさの魅力をわかりやすくお話ししていただきます。

講師:
黒滝哲哉(刀剣博物館学芸員)
上島宗泰(刀匠)
臼木良彦(研師)

時間: 木曜19~20時半
受講料: 6,700円(全5回分)
教材費: 300円
カリキュラム:

- 11月19日 日本刀その美しさと魅力—刀匠とともに—
- 12月17日 日本刀の源流—たたら製鉄—
- 1月17日 刀剣博物館展示見学会
- 2月25日 日本刀研磨の技の実演
- 3月17日 華やかなりし刀装具—日本刀装飾の世界—



江戸東京博物館ホールでの講演

本紙でかつて、製鉄炉の復元操業実験—を紹介された。田秀亨氏が「福島県内における埋蔵文化財の現状と課題」と「福島県内の古代の製鉄遺跡群」について講演したほか、映像と解説で「福島県内で検出された古代製鉄炉の復元操業実験—を紹介された。

平日とあって江戸博のホールには空席が目立ったが、受講された方には大変好評であった。(土子民夫)

などの再生を図る工事が行われているが、そのための土取りに先立ち、発掘調査が実施された。遺跡は平安時代と奈良・平安時代が主体で、製鉄遺跡や炭焼き窯

が密集していたという。受け入れ側に疲労の色が濃く、及川氏は継続的かつ長期にわたる支援と相互交流が必要だと述べておられたが、文化財という一面での支援のあり方が示されたと思う。

第二部は、現地の福島県文化振興財団調査課長・吉田秀亨氏が「福島県内における埋蔵文化財の現状と課題」と「福島県内の古代の製鉄遺跡群」について講演したほか、映像と解説で「福島県内で検出された古代製鉄炉の復元操業実験—を紹介された。